



PHILIPS

Seminar



日本睡眠学会第42回定期学術集会 ランチョンセミナー 13

日時：2017年6月30日(金) 12:30～13:20

会場：H会場（パシフィコ横浜 会議センター 4階「413」）

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい 1-1-1

PSG自動解析装置の評価と今後の活用法

座長：山城 義広 先生

（医療法人社団輔仁会 嬉野が丘 サマリヤ人病院 院長）

演者：八木 朝子 先生

（特定医療法人愛仁会 太田総合病院記念研究所附属診療所 太田睡眠科学センター 技師長）

参加方法：整理券制ではございません。先着順にて受付をさせていただきます。

共催

日本睡眠学会第42回 定期学術集会 / フィリップス・レスピロニクス合同会社

日本睡眠学会第42回定期学術集会 ランチョンセミナー 13

2017年6月30日(金) 12:30~13:20 H会場 (パシフィコ横浜 会議センター 4階「413」)

PSG自動解析装置の評価と今後の活用法

八木 朝子 特定医療法人愛仁会 太田睡眠科学センター

終夜睡眠ポリグラフ検査 (polysomnography : PSG) の解析は、睡眠段階、覚醒反応、呼吸イベント、運動イベントなどを定められたルールに従いスコアリングすることであるが、American Academy of Sleep Medicine (AASM) では視察判定を推奨している。しかしながら、技術専門性が高く、解析技能の習得に時間を要することなど、解析できる熟練した専門技師を確保することは専門の施設以外では困難である。また専門施設であっても、PSGの解析範囲は広く、解析に時間を要することも効率化の課題とされている。従来から自動解析の開発は様々な手法により試みされているが、視察判定との一致率には限界がある。特にアーチファクトとの鑑別の自動化は困難である。近年はPSGのビックデータを基に、高い信頼性と再現性を実現できる自動解析装置の開発が進歩している。十分な精度が検証できれば、PSGの解析には、自動化ができるパートがあると考えられる。

今回、フィリップス・レスピロニクス社の新たなPSG自動解析装置 (SleepwareG3 with Somnolyzer) を用いた詳細な検討結果から、PSG解析の自動化がどこまで可能なのか、どのパートで可能なのか、どのように活用できるのかについて報告する。

所属 日本睡眠学会評議員・同学会認定技師認定委員会・同認定試験委員会・同教育委員会
日本睡眠学会理事
日本ポリソムノグラファー研究会会長
日本臨床神経生理学会
日本臨床衛生検査技師会
日本ポリソムノグラファー研究会
American Association of Sleep Technologist (AAST)

フィリップス・レスピロニクス合同会社

〒108-8507 東京都港区港南二丁目13番37号フィリップスビル

www.philips.co.jp/healthcare

